

2022 年度事業計画

1. 総務委員会

総務委員会は、理事会の下で各委員会と協力して学会活動を円滑に進めて行きます。今年度の主要な活動計画は以下の通りです。

1) 財政

収入の維持・増加のために、会員増強活動を行います。また、シンポジウムやフォーラムの収支バランスの改善による各行事の黒字化を目指します。さらに、事業内容の見直しも含め、財政の健全化を実施します。

2) 会員増強

関連委員会との協力の下に会員増強を進めます。春季、秋季の信頼性シンポジウム、フォーラム、見学会および研究会等の活動を活発に行い、また、非会員の参加者数の増加も含め、本学会の存在を広く認知させます。

3) フォーラムおよび見学会の実施

会員のニーズに沿う、かつ新規会員の獲得に貢献できるような本部主催の見学会を実施します。オンライン開催など、ウィズコロナ時代に即した実施方法を検討いたします。

4) 関係学会等との協力

新規会員の獲得、会員の発表および情報収集の場の提供のため、関係学会等との協力を行います。

安全工学シンポジウム 2022、第 13 回横幹連合コンファレンスおよび電子情報通信学会・信頼性研究会等の開催に、例年通り積極的に協力します。

5) 国際交流

2022 年 7 月に中国・四川省にて開催予定の、The 12th International Conference on Quality, Reliability, Risk, Maintenance, and Safety Engineering (QR2MSE 2022) に協賛いたします。本学会からは、土肥正前会長が Honorary Chair、早川有副会長、井上真二氏、金路氏、田村慶信氏、Xiao Xiao 氏が Technical Program Committee Member として参画し、国際会議の盛会に向けて支援いたします。

また 2022 年度も、若手学会員を対象に、海外で開催される国際会議において講演するための渡航費用等を補助するための国際交流助成金の募集をいたします。

2. 広報委員会

引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で委員会、研究会などの運用がオンライン主体となるため、2020 年度に導入した Microsoft Teams を用いて対応いたします。シンポジウムのマルチセッションなど、Teams の機能を有効活用することも検討いたします。また、日本信頼性学会の活動を対外的に発信する広報活動に関しても、導入したシステムを活用して行っていく方針の検討を継続していきます。

3. 編集委員会

編集委員会で検討した 2022 年度の年間計画（案）を下表に示します。

発行年	発行月	種類	内容・テーマ
2022年	4月号	ニュース	信頼性ニュース（学会ホームページに掲載）
	5月号	展望	IoT時代のデータの信頼性
	6月号	ニュース	信頼性ニュース（学会ホームページに掲載予定）
	7月号	展望	グローバル競争を勝ち抜くための信頼性技術（仮）
	8月号	ニュース	信頼性ニュース（学会ホームページに掲載予定）
	9月号	展望	デジタル空間上のモデル活用による製品品質向上（仮）
	10月号	ニュース	信頼性ニュース（学会ホームページに掲載予定）
	11月号	展望	ミニマルファブがもたらす半導体技術の信頼性（仮）
	12月号	ニュース	信頼性ニュース（学会ホームページに掲載予定）
2023年	1月号	展望	安全性・信頼性技術と説明責任（仮）
	2月号	ニュース	信頼性ニュース（学会ホームページに掲載予定）
	3月号	展望	検討中

- 1) コロナ禍の状況を考慮しつつ、会員サービスの向上に向けて、継続的に記事・企画の模索ならびにコラム欄の活用なども検討・実施して参ります。
- 2) 2022年から開始した信頼性教室「基礎講座」を継続的に実施したいと考えております。さらに、今後も多くの会員に読んで頂ける記事の構成に引き続き工夫をして参る所存です。これまでの会誌に掲載された展望記事やニュースについて、ある一定期間経過後に一般公開するなど学会としての社会的貢献の方法について、継続的に検討したいと考えております。

4. 論文審査委員会

2022年度も新型コロナウイルス感染症蔓延の継続が予想されるため、以下の計画をお示し致します。

- 1) 論文審査委員会は基本的にオンラインにて開催致します。
- 2) 研究分野の拡大に対応して、より多くの論文が投稿されるように、引き続き投稿推奨の方策について検討します。
- 3) 掲載論文数の増加を目途に、信頼性学会誌からより有効な情報・優れた論文の発信を目指します。
- 4) 2022年度は8編以上の論文投稿の受付、5編以上の論文掲載を目標といたします。
- 5) 高木賞候補論文の選考を行います。

5. シンポジウム実行委員会

第30回春季信頼性シンポジウム（一般発表）を2021年5月31日にオンライン開催する予定です。開催準備と運営のために委員会を1回、発表者との接続確認を2回開催し、プログラムの編成等を行う予定です。

第35回秋季信頼性シンポジウム（特別講演および一般発表）及び第31回春季信頼性シンポジウム（特別講演および一般発表）の開催準備、運営、プログラムの編成等のため、第30回春季信頼性シンポジウム及び第35回秋季信頼性シンポジウムの優秀賞と若手奨励賞の選定のために委員会を計3回、発表者との接続確認を2回開催する予定です。

また、シンポジウム当日は、運営及びセッションの司会を務めます。

- 1) 第 30 回春季信頼性シンポジウム (2022 年 5 月 31 日開催)
- 2) 第 35 回秋季信頼性シンポジウム
日時・場所・特別講演：未定
- 3) 第 31 回春季信頼性シンポジウム
日時・場所・特別講演：未定

6. 研究会運営委員会

研究会活動を活性化し、成果に結びつけるため、以下の活動を継続して実施します。また、研究会の新設を支援していきます。

- ・研究会の開催案内や活動状況の紹介 (学会ホームページや学会誌)
- ・研究会活動の成果発表を推進
- －春季・秋季信頼性シンポジウム
- －信頼性フォーラム
- －学会誌
- －日科技連信頼性・保全性・安全性シンポジウム
- －安全工学シンポジウム

など

- ・オンライン会議システムの活用

IEC ディペンダビリティ規格研究会は、諸事情により休会中です。

各研究会の 2022 年度活動計画を以下に示します。

1) 安全学研究会 (主査：福田光芳氏) 【第 1 種】

(1) 活動内容

安全学を拠り所とし、技術分野・産業分野を横断する形で安全のための技術を継続的に議論し、共有すべき知見や技術を蓄積・活用することを目的とし、継続して活動します。

(2) 計画

年 4 回の研究会の開催を予定しています。

第 3 回 2022 年 4 月 21 日 (木)

第 4 回 2022 年 7 月 (期日未定)

第 5 回 2022 年 10 月 (期日未定)

第 6 回 2023 年 1 月 (期日未定)

(3) 発表

2022 年 6 月 29 日 (水) ～7 月 1 日 (金) に開催される日本学術会議他主催の安全工学シンポジウムにおいて、要素技術安全研究会との共同でオーガナイズドセッション「分野を横断する安全技術」を企画しています。

2) 信頼性試験研究会 (主査：松岡敏成氏) 【第 2 種】

(1) 活動内容

2022 年度からは、信頼性試験に必要な関連技術 (信頼性データ解析, 故障物理, 品質管理, 製造工程管理, 保守等) の理解を進め, なお一層, 効果的な信頼性試験を効率的に実

現する技術の向上を目指すとともに、信頼性技術の継承を進めます。

(2) 計画

年6回の開催を予定しています。

4月 具体的な年間活動計画の策定

6月 故障メカニズムに応じた最適加速モデルの選択

・経験情報とデータ解析結果の融合

8月 若手会員企画テーマ(1) 「信頼性試験結果をどう活用するか」

①信頼性試験結果の読み取り方

②システムの信頼性への活用方法

③システムの状態監視と予知保全計画への適用

10月 若手会員企画テーマ(2) 「システムレベルの信頼性管理」

④システムレベルの信頼性試験計画

⑤量産出荷品の定常管理試験と変更品管理試験

12月 若手会員企画テーマ(3) 「信頼性設計のための定性的評価手法」

⑥良品解析による設計検証の進め方

⑦過去の不具合事例に基づく設計検証の進め方

2月 年間活動のまとめ

・製品開発、製造フェイズに応じた信頼性試験計画と試験結果の活用

(3) 発表

①本学会シンポジウムでの活動報告

②関西支部信頼性フォーラムを通じた成果情報共有

3) 要素技術安全研究会(主査:川島興氏)【第2種】

(1) 活動内容

産業機械、自動車、住宅など幅広い分野に広がった機能安全に関連する規格、法規制及び技術動向を捉え、適切な機能安全の適用に資するための活動を行います。

とくに、IEC 61508、及び安全関連制御に機能安全を適用する関連規格(産業機械、パワードライブシステム、ロボット、自動車等)の調査を通じて、機能安全規格の理解を深めるとともに課題の顕在化を行います。

また、機能安全に限らず安全に関する幅広いトピックスを題材にディスカッションを行い、知見を広めます。

(2) 計画

年5回(5月、8月、10月、12月、3月)の開催を予定しています。

(3) 発表

安全工学シンポジウム(安全学研究会との共同)、秋季シンポジウムなどで研究成果の発表を予定してします。

4) 故障物性研究会(主査:土屋英晴氏)【第2種】

(1) 活動内容

会員と研究会の成長が継続的に進むよう研究会の方向付けを適切に行い、更に大きな成果

につなげることを目指します。そのために、特に下記について重点的に実施します。

- ・会員の意思を尊重して、信頼性・安全性の現場で起きている故障や製品事故の中から時流に相応しい研究テーマを創出し活動します。
- ・研究会内に設けた実行委員会や分科会の活動を通じて、研究を深掘りします。
- ・「日本信頼性学会ホームページ：故障物性研究会専用サイト」の運用を継続し、資料の共有化と活用を促進します。
- ・成果の一部を外部に公開し、広報するとともに新たな情報収集や会員募集に努めます。

(2) 計画

年6回（偶数月第4金曜日）の開催を予定しています。コロナの感染状況を鑑み、開催形態（オンライン、会場集合、または併用）を判断し、当面は時間を短縮して開催します。

(3) 発表

- ・秋季信頼性シンポジウムにおいて、故障物性研究会のオーガナイズドセッション又は一般発表を検討します。
- ・信頼性フォーラムとして、故障物性研究会シリーズ Vol. 5 の企画・運営を検討します。

5) 半導体デバイス故障解析研究会（主査：二川清氏）【第2種】

(1) 活動内容

半導体デバイスの故障解析技術の分野において活動を行っている技術者・研究者に限定して、高度な技術・研究レベルでの、密度の高い討論を行います。

- ・研究員が研究中の最新技術の紹介
- ・研究会以外からの招待講演
- ・他の研究会、国際会議、国内会議、論文などで発表された研究・技術などをベースに、活発な、忌憚のない議論を行い、研究員相互のレベルアップを図りその結果として日本の半導体デバイスの故障解析技術のレベル向上に寄与することを目的とします。

(2) 計画

年2回の開催を予定しています。日時・場所・発表者は未定です。

(3) 発表

- ・研究成果の発表予定はありません。

7. 表彰委員会

本年度も表彰委員会を開催し、以下を審議します。

- 1) 2022年1月号から2022年11月号の間に学会誌「信頼性」に掲載された論文の中から、高木賞を選定するための審議を実施します。
- 2) 第30回春季信頼性シンポジウムにおける発表論文の中から、優秀賞1件と若手奨励賞1名を選定するための審議を行います。
- 3) 第35回秋季信頼性シンポジウムにおける発表論文の中から、優秀賞1件と若手奨励賞1名を選定するための審議を行います。
- 4) 2022年1月号から2022年11月号の間に「信頼性」に掲載された論文以外の記事の中から、優秀記事コラム賞を選定するための審議を実施します。

5) 国際交流助成金

2022 年度後期に海外で開催される国際会議において講演するための渡航費用等を補助するための国際交流助成金として、応募者の中から助成対象者を決定するための審議を実施します。

8. 関西支部

今年度も、オンライン開催を使用し、信頼性に関する現状および将来の展望を探究することを目的とし、講演会（2回程度）、フォーラム（1回）と研究発表会（電子情報通信学会 信頼性研究会との共催）を行う予定です。新型コロナウイルス感染状況によって、しばらく休止となっている見学会や会場開催の再開も検討していきます。フォーラム、講演会では、参加者とのディスカッションが活発に行われるように努めます。

なお、参加人数の目標として 40～50 名程度とします（オンライン併用）。

9. 本年度の主な事業の予定（再掲）

- 1) 第 44 回年次総会 2022 年 5 月 31 日（火）
- 2) 第 30 回春季信頼性シンポジウム 2022 年 5 月 31 日（火）
- 3) 第 35 回秋季信頼性シンポジウム 2022 年 日程未定
- 4) フォーラム 2 回，見学会 2 回（新型コロナウイルス感染症拡大状況によって変動あり）
- 5) 各研究会
- 6) 関西支部行事

開催日や内容については、学会誌・信頼性ニュース及びホームページに掲載します。